

## 【第8期】第2回柳瀬川・空堀川流域連絡会

### 第1回現地視察会 意見交換会議事録

#### ■開催日時・会場

日時：平成28年7月8日（金） 15：00～16：30

会場：武蔵村山市民会館 1階 会議室

#### ■参加者

都民委員6名／団体委員3名／行政委員6名／事務局等3名

#### ■意見交換

##### 1. 開会

###### （1）事務局・座長挨拶など

※4月の人事異動に伴う行政委員、事務局の交代について説明、挨拶があった

行政委員：北多摩北部建設事務所工事第二課長（座長）

清瀬市都市整備部水と緑の環境課長

事務局：北多摩北部建設事務所工事第二課工務担当

##### 2. 議事要旨

※座長の議事進行により、視察の感想や意見交換を行いました。

###### （1）現地視察の感想など

座長

市街地を流れる都市河川というイメージだったが、今日源流地域を見て、やはり元々は自然な川、そこから出発している、という認識を改めて持ちました。

副座長

本日の開催に至る経緯だが、事務局との打合せで、第8期が始まり新しい委員の方もいるので最初にできるだけ現地を視察し確認した上で流域連絡会を始めた方がいいだろうということで、まずは源流部の視察会を開催してもらうことになりました。

都民委員

数年前に仲間で回ったことがあったが、今日改めて違ったコースで、周辺のいろいろな歴史的な事柄も確かめることができ、とても貴重ないい会だったと思います。

行政委員

都河川部で、基本的には一級終点までを管理するという立場ではあるが、やはり源流域を見ることは大事だと再認識しました。川だけでなく流域全体を見ながら、みなさんのご意見も伺いながら、引き続き勉強していけたら良いと思っています。

都民委員

20年くらい前に見た場所でしたが、その頃に比べて水量がずいぶん減っています。長期的には、川だけでなく森林や住宅地の浸透柵など、考えなくてはいけないと思いますが、効果が出るには30年40年かかります。東村山市では、上流1kmくらいしか水が流れておらず、あとの5k

mはカラカラです。その原因は必ずあるはずなので、対応・対策を取らなくてはいけない時期です。ぜひ本会の中で対策案を考えて、実際にそれを実行に移していきたいと思っています。

#### 団体委員

何年か前にこの辺を歩いたことがあります、やはり空堀川の源流は非常に大変な状況だ、というのが正直な感想です。大きな山も林もない、田んぼや畑が減って都市化が激しくなってくる、ということが重なってさらに水が乏しくなります。特に東大和、東村山では水が少ないので、とにかく水がほしいというのが一番の願いです。全国的、世界的に成功した例として、いつでも水が流れていて大勢の人が楽しんでいる、ホテルが飛び交っている、アユが上ってくる、本当にそういう川にしようと思ったらできるのではないかと。本当にやろうとするかしないかだけの違いではないかと。できれば東京オリンピックまでに、少なくとも水が途切れない川になるような方法をみんなで考えていけたら良いと強く感じました。

#### 行政委員

環境課に配属されてまだ1週間なので、正直なところ、まだ柳瀬川・空堀川流域連絡会の川を取り巻く状況や問題、いきさつについて勉強不足なところがあり、これからみなさんのお話を伺いながら知識を深めていきたいと思っています。

#### 行政委員

川は源流から水が確保できて流れてほしいものだと思います。東京都にはご尽力いただいておりますが、財源的な問題などもあり、水確保の方法というのは難題になっているのが現状だと思います。東京都に整備していただいた金山調節池には、公園があり柳瀬川が流れていて、水と緑があり生き物がいて、みんなが集まって来るような、清瀬市を代表する公園だと思っています。そのような場所が、4市の中でいろいろとできれば、子供たちにも将来の市民にとってもいいことだと思います。水の確保を上流からやっていく方法が何かないか、この会をもっと盛り上げてなんとか実現していけたらいいと思います。

#### 都民委員

現実、川に水は流れていません。雨が降っても3日ほどで枯れてしまう川になっています。ある時突然流れてこなくなり、どうしてしまったのだろうと思っていましたが、上流で水が二つに分かれて、空堀川ではなく他の川の方に流れるようになり、それで水が来なくなったということ、今日初めて伺いました。東村山の消防署付近に、流れついてきた木がここ2~3年で大きくなって、水がたくさん流れた時に引っかかるのではないかと心配しています。どういう状況か視察をして対処していただきたいと思っています。

#### 団体委員

流域の都市部では住宅が川筋まで近づいてしまって、なかなか水を確保するのは大変だろうと思います。でもなんとかして、ある程度平均的に水が流れるようになって、アユが上流まで遡上するような河川になってほしい。清瀬の区間は川に下りられるが、空堀川は下りられる場所が限られているので、もう少し増やすように考えてほしい。捨てられたゴミを拾おうと思っても下りる場所がない。ぜひ検討していただいて、みんなが親しめる川になればいいと思っています。

#### 都民委員

新薬師橋の上流、本町界限は川沿いであまり住宅開発が進んでいないところがあるので、宅地開発される前に市で土地を買い取って、川を中心にした公園を作ってもらいたい。新薬師橋のあたりに堰を作って、溜まった水をポンプで上流に引いて源流に加えてもう一度流せば、少ない水でも流

量のある川ができます。東京都と市が一緒になって、川がある公園を作ってもらえないか。ぜひ考えてもらいたいと思っています。

#### 都民委員

空堀川は武蔵野線の水をもらっていますが、その湧水を下に浸透させないで川に流すような方法を取っていただけたらいいと思っています。清瀬の流域では、けっこう湧水が出ているので魚も増えています。空堀川と柳瀬川の合流点だが、分水工があるために埼玉県側の自然の河畔林が、大水が出た時にはなくなってしまうのではないかと心配しています。また草地のところにもう少し草があれば、子供たちもタモ網で魚が捕れると思います。もっと魚を増やしたいので、東京都が草を植えていただけたらありがたいと思っています。

#### 都民委員

源流部は非常に興味があったので、とてもいい勉強になりました。ただ、山の上の方まで宅地化が進んで、道路がアスファルトになって、コンクリートの庭になって、雨が降っても浸透しない、すぐに川や下水に流れていってしまう、という環境になっているので、ちょろちょろとしか水が出ていない状況だということがよくわかりました。源流部から豊富な水を流すのは難しいという印象を持ちました。だから、源流に期待せず、他の方法を考えなくてはいけないのではと感じています。この会はもう8期まで続いているので、すでにかなり議論されて、いろいろな意見が出てははずなので、それを1回掘り起こして再確認をした方がいいと思います。その中で活かせるものがあれば、活かしていけば、空堀川も水が豊かになって、いろいろな生物が棲める川になっていくのではないかと感じました。最後に見た河道内調節池では、直線的な川になってしまうという意見が多く出ましたが、蛇行させるための土地を買収するのは不可能だろうから、造られた河道をどれだけ多自然にするかということ、みなさんとこれからいろいろと議論をして、工夫していくということが必要だと思います。旧川は3面張りなのでなくてもいいと思いますが、ホタルを繁殖させるためなどに利用できるのなら、そういった方面で残していてもいいかと感じました。

#### 行政委員

武蔵村山市で見ていただいた一般河川部分の水路を管理していますが、本当の源流域までは整備ができていません。整備するのがいいのか難しいところもありますが、集中豪雨などがある中で、管理部署としては災害対策が第一になってくるところはあるかと思います。上流域まで市街化が進むと、水路の整備も進めなくてはいけない。今後は、自然と調和するような方法を考えていかなくてはいけないのかな、と感じました。また、水の確保というのはなかなか行政だけではできないと思いますが、源流域を管理している責任もあるのかな、ということも感じる場所がありました。

#### 行政委員

初めて視察に同行して、やはり源流から流れてくる水が少ないということを目で見ることができました。今後の課題にはなりますが、空堀川の流量確保のためにいろいろと考えていかななくてはならないと思っています。

#### 副座長

源流域と言いながら、流れが非常に乏しい。改めて分水嶺を確認して、期待していたところも残堀川に流れて、空堀川の源流域ではないということが明らかになりました。源流域をもっと豊かにできるのかできないのか、すでに開発がどんどん進んでしまっていて諦めざるをえないということであれば、水量の確保をそこに求めることはできないということになります。ただし連続というキーワードで見えていくと、柳瀬川はけっこう豊かな川で、空堀川もある程度のところは流れているか

ら、途中、特に東村山地域が一番厳しいと思うが、そこに連続的にどううまく流すか。水量は多いほどいいが、少なくとも切れないうで流れるようにするにはどうするか、ということだと思います。なんとかそれができないか。それから川の恵み。ひとつは生き物。ホタルを飛ばしてみたい、アユを上流まで遡上させたいとか、そのようなことだと思います。東大和では、空堀川の最大の水源ということだと思いますが、途中から工場の排水が流れ込んでいて、魚もすごく増えています。魚が増えると水鳥も来るので、コサギはもちろんアオサギ、ダイサギ、カワセミも飛び交っています。川の恵みを明らかに感じられる、そういう川になっています。だから、水流、水量というのは非常に大事なファクターだという気がします。みなさんが見て来られて、源流のこの状態は、まだ手を加えれば多少はなんとかなると判断するか、諦めて別の道を取るか。あるいは、とりあえず対処療法的な手段を講じつつ、源流域も大事にしないではいけないという、ふたつの路線を同時に進めるか、その辺が議論になるのではないかと、そんな感じを持ちました。

## (2) 水量確保について

### 【護岸工事と湧水について】

団体委員

原因はよくわからないが、清瀬の境橋付近の護岸工事では、けっこう湧水が出ていますが、工事が終わると湧水がなくなってしまう。護岸を入れた時に、湧水が出ている部分を遮断してしまっているみたいです。最近、護岸の裂け目から湧水が噴き出しています。そういう湧水を川に取り込めば、空堀川でもある程度水量を確保できるのではないのでしょうか。

都民委員

境橋のところは、橋の下からものすごく湧水が出ていましたが、今は全然出ていません。

座長

護岸を深く入れてしまうから水が止まってしまうというイメージか。矢板を深く入れているかどうか、調べてみないと即答はできませんが、意識的に止めているということはないと思います。

団体委員

東京都は意識していなくても、工事受注業者が切ってしまうのかもしれない。工事がやりやすいように水をシャットアウトしてしまうのではないか。柳瀬川は、埼玉県があまり工事をやっていないから、けっこう湧水も出て、水が豊かなのではないかという気がします。空堀川は、もうほとんど人工河川だから、矢板をみんな打ってしまっているから、湧き出ているところが、もうほとんどなくなってしまったのではないかという気がします。

座長

23区の3面張りとは違い、基本的にはブロック積み護岸。矢板を深く入れているというのは、山留めの仮設のことなのか、本体にもそういうことをやっているのか、図面を見て確認しないとなんとも言えません。

団体委員

U字型のパイプでも通せば、もしかしたらサイホンみたいに吹き出てくるかもしれない。ちょっとした配慮をすれば、少しでも水が確保できるのではないか、今後50mm対応で合流地点のところから川を掘削していけば、また水が枯れてしまうのではないか、清瀬の区域では湧き出ている水が多いけれど、それが消えてしまうのではないかという気がします。

座長

主旨は、設計上多自然型の工夫が必要だということですね。工事が原因ではないかというお話ですが、調査をして今後の工事に活かせることがあれば活かしていきたいと思います。

#### 【水量確保の方法について】

座長

多くの委員からお話があった水量不足が、やはり一番の問題かと思います。空堀川だけではなく、野川や残堀川もそれが第一の課題になっていますが、とりわけ今日源流を見て、元から出てくる水が少ないということもあり、空堀川が一番厳しいかなという印象は持ちました。これまでも水量確保の話はいろいろと出ていると思うので、それを確かめて、具体的にできるようなことがあれば。例えば、水が浸み込んでなくなってしまうのではないかということで、他の河川では川底に粘土を張るといったこともやってきています。あと委員が言われたような、維持用水として循環させるというようなことも昔バブルの時代にやったところはありませんが、現実的かどうかなど今後いろいろ検討していかなければいけないと思います。

団体委員

明治薬科大学では、建物が浮き上がってしまうということで24時間水を汲み上げています。その水は全量、柳瀬川に流しています。反対側に流せば空堀川に流れてきます。そういうことも含めて、少しずつ工夫をしていけばいいのではないのでしょうか。

座長

もう今日の段階でいくつかアイディアというか、お話が出たので、それを話し合っていければと思います。

団体委員

武蔵野線の地下水もけっこう湧き出ているから、もっと空堀川に取り込めるのではないのでしょうか。

都民委員

今、新秋津のところの地下水は全部柳瀬川に入っています。御成橋のところは空堀川に入っていますが、1日600トンから5000トン、季節によってかなり変動はありますが、それくらいしかありません。

副座長

途中から取り入れるのは、もちろんそれはそれでいいと思うますが、源流部からどう繋げるかということを考えていかないと。上から下には繋がるが、途中から上には繋がらないから。

団体委員

とにかく水源といえば雨しかない。できるだけ雨がゆっくり流れ出るようにすれば、水は確保されるというのは誰でも知っていることなので、東大和、東村山では、十分ではないけれど既にいくつかやっているが、武蔵村山市では、雨水浸透柵の制度や普及率といったことをどう考えているのか。本当に長期的な話になりますが、根本的な話なので。

行政委員

今、武蔵村山市には宅内の雨水浸透柵についての制度はなく、補助金は出していません。制度がないのはこの近辺では武蔵村山市だけなので、今、検討は始めています。ただ、東大和市や立川市などからデータを集めているが、制度を作っても実際に使っているのは本当に年間何軒かということです。しかし制度、補助金は必要だということで検討はしています。

都民委員

市内の道路に雨水というマンホールがありますが、あれは何か。河川に流しているのですか。

行政委員

武蔵村山市では公共雨水として整備されているのは1割で、宅内は宅内で処理するので、マンホールで雨水となっているのは道路排水です。公共下水で接続しないと河川に流すのは難しいので、道路や公園などに浸透施設を造って対応しているという状況です。

団体委員

かたくりの湯は井戸から汲み上げて、循環して使っているようですが、最終的には下水に流しているのでしょう。難しい話だとは思いますがあえて言えば、浄化して河川に戻してもらえれば一番いい。温度が上がっているし、いろいろな問題があるので単純にはいきませんが、本来なら川に流れなければいけない水を汲み取って温泉に使っているわけだから、そのようなことをしてもらえば、少しは空堀川の足しになると思います。とりあえずは、そういうものをかき集めるしかない。あと番太池にしても赤坂池にしても、浚渫して貯留量を増やすとか。

行政委員

梅雨の時期でも、今日見ていただいたのが現状ということで、それほど期待はできないのかなという気はします。

都民委員

下がヘドロで、水深10cmくらいしかない感じでした。私たちも、東村山で2年ほど前に、小さい5m角くらいの池で一度やりました。それをやると水質も良くなるし、ワンドを人工的に造ったのだが、スッポン4匹とイシガメが1匹いて、やはり効果はありました。赤坂池に手を入れるのは大変だと思いますが、番太池をやるのはそんなに難しい話ではないです。源流から水を流してもらっているわけだから、下流の我々も何か協力できないかということは考えていました。基本的に武蔵村山市で管理しているものなので、まずそちらで考えていただかなくてはいけないが、全部税金でやるというのではなく。今年1月に、狭山公園のたっちゃん池でかいぼりをやりましたが、募集で70～80人が参加して、見物人もたぶん200～300人は来ていたと思います。みなさん関心があるので、市役所からもけっこう近いくらいの位置だから、なんとかそういうことができなかなと思っています。

### (3) 次回開催について

座長

話は尽きませんが、第8期のひとつのテーマとして水量の問題は、源流対策も含めて次回以降も話をしていくということによろしいでしょうか。

副座長

次回以降2回くらいでひと通り現地視察をして、その上で議論を進めた方がよいと思います。

座長

今回はまた現地視察した上で、その後、今日のような話し合いの場を1時間くらい持たせていただくということにしたい。

副座長

源流域を見たので順々に下っていくか。それから清瀬の合流部のところの工事がいつ終わるのか、途中で見るよりは終わったところでしっかり見た方がよいかと思います。

団体委員

合流部は夏の時期を過ぎてから見た方がいいのではないかと。河畔林と自然林があって、それがどれくらい壊されるか検証をかけたいと思います。流心が寄って左岸側がすごく洗われて淵状態になっています。台風が来たら流れそうな小さな木もあって、そういう状態なので、壊れるなら壊れた状態のところを見た方がいいという気がします。

都民委員

私たちは、あの河畔林がとても心配でした。もう水が流れてしまっているから、本当に台風が来たらあの木も倒れてしまうかなという心配があります。あそこが残るかどうかが問題。

都民委員

現地視察は1回空けた方がいいのではないのでしょうか。8月は、例えば今後どういうふうに進めたらいいかという議論をする。正式にはどういう形式でやるか、分科会に分けてやるかも決めていないので。それを1回やって、行政委員は議会があって難しいかもしれないが9月に現地視察を行う。

副座長

やはり9月に現地視察を行う。それで、1回で上流から合流点まで行ってしまうか、それとも2回に分けるか。

都民委員

それなら1回で良いのではないのでしょうか。前の期でも、1日で清瀬から上流端まで見ています。

団体委員

今月いっぱい合流部の工事は終わると思います。今、仮設道路の撤去中で、よほどのことがない限りは延びないと言っていたので。

座長

河川の工事は終わるが、搬入路の撤去はお盆くらいまでかかります。

副座長

次回について決められるのであれば、今日決めておいた方がいい。

座長

我々もちろんみなさんとの繋がりを大事に、最善の努力をしたいと思うが、事務局として1ヵ月1回開くというのは正直厳しい。

都民委員

空堀川というのは今、非常に危機状態に陥っているので、やはり早く、例えば今年度中くらいに、ある程度水量確保の対策を決めて、都の他部署や地元の自治体、それから市民に、こういう問題があって、こういう対策をすればなんとかなりそうだ、というようなことを提言していかないと。来年の川まつりができるかどうかと心配しています。早く決めるべきことは、決めていかないと。

副座長

視察は1日で、残りの合流点までを全部見てしまう。時期は9月頃ということで可能でしょうか。

事務局

まず、どういう視察にするか相談させていただきたい。

団体委員

ずらっと見る必要はない。ポイントポイントを。

座長

この場で約束するのは少し厳しい。準備にも時間がかかるので。そうは言っても、早急にやらなくてはいけない部分もあるので努力しますが、今日の時点でいつというのは保留させていただきたい。

都民委員

見学会ではなく、その他いろいろな決め事をまだはっきり決めていないわけで、分科会に分けるかどうかは決まっていないので、今日来られなかった方も含めていろいろなご意見を聞くのがまず先決ではないでしょうか。

座長

それについても段取りはするが、いつやりますということを今日約束するとことは難しい。

都民委員

ひと月前くらいにはお知らせいただいて、次と次はこの時期にやりたいと思うということもご提案いただきたいと思います。そうしないと予定が立たない。特に夏は、我々も他にいろいろと予定があるので。

座長

スケジュールを検討したい。

団体委員

空堀川に水がないという原因は、たぶん地下水の変動だと思います。東京都が空堀川でも地下水と河川の水位を定点で観測しているはずですが。それを報告資料として出してみしてほしい。原因が自然現象なのか人工的に起きてしまっているのか、たぶん分析されていると思う、研究しているのだから。

事務局

対策までは出ていないと思いますが、土木技術支援・人材育成センターで研究している成果はあって、根本の原因は地下水が低いということと聞いています。継続的に調査をやっているので、今時点でどれくらいかということは我々も確認しておきます。

座長

とりあえず、希望として、次回は9月頃ということで努力します。

副座長

視察をするか、それより先に話し合う場を設ける必要があるかですが、分科会の形成にしても、まず全体で視察をして、新委員も川の全体がわかった上で分科会活動をやらないと話にならないと思っているので、私は視察を1日で終わらせることができるのであれば早めに終わらせて、それから分科会に入れればいいと思っています。

事務局

では次回は、まず残りの区間を視察するという方向でよろしいですか。

団体委員

合流点を見て、良かった点、悪かった点、改善しなければいけない点など、東京都も検証していると思うので、その報告をもらえれば、我々が持っている情報と突き合わせてみて、今後どうしていったらいいかの参考になると思います。

都民委員



今期初めて参加する私たちにとっても、1日の視察で良いのか。それで、みなさんと同じような知識が得られるのですか。

団体委員

全流域はもちろん見られませんが、ポイントポイントを押さえて繋げてもらうという形になると思います。

座長

水量確保の他にも、河川の中の木の問題だとか、川に下りられるように階段を造るとか、いろいろな話が出たので、今後それらについても話し合いをしていければと思います。

今日は朝から長時間にわたり、ありがとうございました。